全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

花紅葉　わくらばもあり　いろは坂

私塾ネット　副理事長　梶原　賢治

新生 東京工業大学附属科学技術高校 学校改組、高大連携教育の狙いを聞く

山手線田町駅前に東京工業大学附属工業高校がある。駅のプラットホームからも線路脇のグランドや校舎を見ることができるが、これが同校だと認識する人はあまりいない。れっきとした国立大工学部附属高校なのだが、塾界ではこれまでなじみの薄い学校であった。工業高校であるというのが理由のひとつであったが、「国立」のベールに隠れ、その実態が見えないというのが実際であった。6月某日、神奈川の中村学院の中村成美先生のご紹介で、同高校の石井校長とお会いする機会を得た。学校を東京工業大学附属科学技術高等学校と改名、大学との連携を強めた学校に改組する予定とのこと。ついては初めて塾向けの説明会を開きたいので協力をとのご要望であった。そこで私塾ネットからは、主に私学の説明会の要領や塾名簿等を提供、あわせて9月に都内で開催の私立公立合同の入試相談会をご紹介した。10月上旬、理事長谷村、事務局長仲野、関東代表鈴木の3名はあらためて同校を訪れ、広報8号のために、学校改組の狙い・高大連携プログラム等についてインタビューをお願いした。お相手いただいたのは石井彰三校長、市村益男副校長、片岡哲教務主任、多胡賢太郎研究部主任の4先生である。（谷村）

初めて説明会をさせていただき、暗中模索というのいが正直なところでした。

谷村：まず、９月１４日に初めて実施された塾向けの説明会のご感想、ご意見をお聞かせください。

片岡：初めて説明会をさせていただき、暗中模索というのが正直なところでした。アンケートには「あれでは１００点満点で２０点だ」という辛口のご意見もありました。塾の皆さんを相手にしたときにどうしたらいいかというところが、今後の検討課題だと考えております。

谷村：当日参加をした立場で言わせていただければ、データ、情報的にはじゅうぶん足りていたと思います。私立学校がやられているのと同様のものを期待するわけではありません。的確な情報を開示いただければ、塾にとってはありがたいことです。来年も引き続きお願いしたいと思います。

附属を持っている強みを生かして、高校教育はこうあるべきではないかという発信もしたいということで改組の骨子が固まってきました。

谷村：それではここで肝心の、来年４月の学校改革改組の動きについてお話をお伺いいたします。校名も東京工業大学附属科学技術高等学校と変わり、従来の５学科を科学・技術科に一本化するなど学校自体が大きく変わろうとしていますが、改革と改組の経緯、狙いをお聞かせ下さい。

石井：今回の改組は、３年ほど前でしょうか文部科学省が国立大学の附属学校のあり方をそれぞれ学校で検討せよ、特に教育学部附属の学校が圧倒的に多いのですが、本来の役割を果たしているのかどうかということ、また、有名附属学校は独立してもよいのではないか、あるいは地方の教育委員会に移管するということも検討せよということでした。我々は教育学部の附属ではありませんので、位置づけが違っています。東工大では文部科学省から話が来る前から、本校の改革を考え始めていました。附属学校のあり方が検討される前に改組の動きがあったのです。どのような路線で進めていくかははっきりしていませんでしたが、もともと東工大が理工系学部として世界のリーダーになるという考えがあり、そのためには、大学の学部での教育というのはもちろんですが、その前の高校段階で目的意識とかモチベーションをしっかり持つ学生を受け入れたいという考えもあります。そういう意味では、附属を持っている強みを

改組のねらい

- 科学・技術を志向する全人的教育
- 能力ある生徒をさらに伸ばす教育

本校教育の特徴

- 工業科専門高校としての先進的教育
- 大学・大学院に接続する教育
- スーパーサイエンス・ハイスクール指定校としての教育研究の実績
- 東工大との高大連携教育
- 高大連携特別選抜による東工大への推薦入学

工学部附属工業高校

機械・電気・電子・工業化学・建築5学科定員200名

↓

大学附属科学技術高校

科学技術科定員200名・分野別5クラス各40名

生かして、高校教育はこうあるべきではないかという発信もしたいということで改組の骨子が固まってきました。科学技術を指向するには全人的教育が必要で、受験のために高校の勉強をするのではなく、将来を見据えた上で高校の勉強をさせよう。その一環として特別選抜もすることになりました。高校時代にやるべきことをした学生を受け入れ東工大で教育したらどうなるか、こういう学生になるはずだというシナリオがあって、今回の改組の骨子ができたわけです。

谷村理事長のインタビューに応じられる、右から石井校長、市村副校長、片岡主任、多胡主任の4先生方

谷村：従来は優秀な工業技術者の育成、人材の育成が教育目標だったものが、それが少し方向が変わって技術者と言うよりも研究者の育成の方に向かっていくのでしょうか。

石井：技術者を育成するという基本は変わりません。工業高校は約６００校ありますが、もともと高校を卒業してすぐ実業界に出て活躍する生徒を育ててきました。時代が変わり、工業高校とはいえ大学に進みたいという生徒も増えてきています。本校の場合は高校で終わらないで、次の高等教育機関へ進学する生徒を育てるという方向に移ってきています。

本校の先生は大学のレベルの授業ができる力を持っていますから、それを実践できる場をつくれないかと考えています。

谷村：スーパーサイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）の取り組みと高大連携プログラムについてお話をお伺いしたいのですが。

石井：ＳＳＨでは、文部科学省として高大連携を積極的に進めなさいという意向があります。我々としては、それ以前から東工大と連携して新たな高校教育を進めようとしていたので、このプロジェクトに申請しました。ＳＳＨは理数科の教育がポイントなのですが、我々は工業高校ですから技術の勉強も大切です。東工大は理工系大学ですからサイエンスとテクノロジーの両方をとりいれました。どちらかというとこれまでの初等中等教育では技術の教育がないがしろになっていました。このような中で生徒が理工系大学に行ってしまうのです。そういう意味で我々のＳＳＨの視点というのは違った切り口であると考えます。

谷村：東工大では衛星通信による高大連携プログラムも実施されていますね。具体的に東工大がやられていることはどの様なことなのでしょうか。

多胡：スタートしたのは平成１４年度からで、東工大の教育工学開発センターが大学だけではなく高校にもサービスを展開しようということで始まりました。我々も高大連携の旗を掲げておりましたので、これに名乗りを上げたわけです。大学の授業を体験してみようというのが１番大きいことですが、メリットは衛星通信ですから、生徒が大学に行かないでも受けることができるということです。ただ我々は見せるだけではなく、そこに付加価値をつけようと考えまして、教員が張り付いて解説を加えることをしています。非常に高いレベルの題材をそのまま受け取らせるだけではなく、実は君たちが高校で今やっている勉強は、将来ここにつながるのだよという形として活用していくことを考えています。

石井：高大連携は色々なやり方があるようですが、我々は東工大の附属高校です。ですから、大学の先生が高校へ来て授業をやる、あるいは大学の授業を衛星通信で受けるというのはひとつの選択肢ですが、基本としては、本校の先生は大学レベルの授業ができる力を持っていますから、それを実践できる場をつくれないかと考えています。

ゆとり教育ということで、数年前に嵐が吹き上げたときに、これは何とかしなければならないとなりました。

谷村：昨今よく理科離れが言われ、学力低下の論争も盛んでしたが、その点についてどの様にお考えですか。

多胡：学習指導要領で３割削減ということが昨今話題になっていますが、１０年前の改訂から例えば理工系大学で必須である微分方程式がなくなってしまうというような歪みが生じていたことは肌で感じていました。逆に言うと我々が大学へきちんと飛躍無しでつなげる教育プログラムができないかということは、常々、ずっと前からみんなで学校を挙げて考えていたことなのです。たまたま、どんどんゆとり教育ということで、数年前に嵐が吹き上げたときに、これは何とかしなければならないとなりました。私どもの学校はテクノロジー、工業という題材を扱っております。工業の教科書は普通科の学校の生徒さんが見ると恐ろしく難しいことが書いてあります。よく見ると結果

だけポンポンポンと書いてあるのですが、それを題材にしてそれを理解させるようにすれば、工業としても使えるし、理工系大学への基礎体力になると考えています。ですからサイエンス、テクノロジーということを取り入れて理数系の教育において、しっかり揺るがない、多少見方を変えても崩れないような知的体力を身につけさせるように、テクノロジーという切り口から工業という題材をもとにしてやっていこうと考えています。

谷村：学力低下論争については石井校長先生どうお考えでしょうか。

石井：今の子ども達は生活体験が少ないのではないでしょうか。工業高校では実験や実習の機会が多いので、仕組みはどうなっているのだろうかとかどうやって計算したらいいのかとか必要に迫られます。しかし、受験校では式は解けるでしょうが、何でそんな式がでてくるのだろうかとか、どう使われるのかというところまで踏み込んで考えさせていませんから、終わってしまえばそれっきりということにもなる。やはり、これからの教育は実際にどう使われるのか、何のために学ぶのかを理解した上で理科とか数学を勉強すべきであると考えます。ある調査によると、子ども達は理科、数学は好きなのですが、将来役に立つかという事については、あまり役立たないと考えているようです。まったく認識が違いますね。理数離れは、役に立つかどうかわからないものは勉強しようとしても真剣にやれないことに結びついているのではないでしょうか。又、大学生の勉強の仕方、力の付け方がそうなんです。彼らも目的意識がはっきりしていないので、単位を取るために勉強すると言う傾向がありますが、４年生になると卒業研究として研究室に入るのですが、その際研究テーマをもらって研究するとなると、いかに勉強をしていなかったとか、ものを知らなかったとかに気がついて愕然とするようです。そこで勉強し直す。東工大では４年生のときに自分自身で積極的に勉強することにより、さらに力がついて社会に出る。いかに生徒、学生諸君にやる気を起こさせるか、つまり、何のために勉強するのかが分かれば、やり出すとおもしろいですから、いかにそこまでもっていくかが問題です。工業高校はそういった環境が備わっています。これから理工系大学は普通高校出身者ばかりではダメですよ。

仲野：一般の公立学校では移動があるわけですが、こちらでは皆さんどのくらい勤められているのでしょうか。また、学力低下を現場でどう感じられていますでしょうか。

市村：私は３４年以上になります。基本的には移動のない学校ですが、中には大学などに移られたりする先生もいらっしゃいます。生徒の学力についてですが、大きくは変わっていないと思います。ただ生活感覚の豊かな子が少なくなったという感じはします。ある人が、日本は豊かさに負けたからではないか、と言っています。本校に入ってくる子供達も、学力的なものはさほど変わっているとは思わないのですが、昔の子供達はアクが強いと言いますか、どこででも生きていけるような、そういう力強い生徒が多かったように思います。

谷村：では最後にこれから貴校に入ってくる学生に期待することは何でしょうか。

片岡：。来年、科学技術科の１科だけになるのですが、いろいろなことを知っている生徒が欲しいですね。工業高校だから国語はできなくてもいいと言うことはありません。何かに突出することはありますが、他のものも最低レベルのことを身につけた上で専門を伸ばして、これだけのことは高校でやったということで、胸を張って大学へ行って欲しいと思います。私がいつも言っているのは、自分で手を動かして欲しいということです。まず手を動かしてください。その結果壊れても仕方がない。一生懸命自分で何かを身につけて欲しい。そういう生徒が入ってきてくれればいいのですが。

約６０分におよぶインタビューであったが、4人の先生がご担当の立場で発言をいただいた。紙面の都合上ご発言の多くを割愛しなければならいことをお詫びしたい。東工大と連携を強めることとなった同校は、国立附属というブランド力と経済的な学費や山手線田町駅前という地の利を考慮すれば、来春以降の高校入試の目玉となることを予感させられた。

田町駅徒歩0分の立地も大きな魅力。公道に面した近代的なキャンパスイノベーションセンター。

著　作　権　問　題

著作権を巡る現在直面する問題を考える研究会
【日　時】平成16年9月10日（金）午後１時より
【場　所】東京都私学財団
【講　師】三田誠広氏

第69回拡大任意団体連絡会、第25回私立中高進学相談会第２回実行委員会が東京都私学財団（飯田橋セントラルプラザ）11階会議室にて午前10時から開催されたのであるが、昼食後塾にとっても最重要課題であるところの「著作権」にまつわる勉強会があったので、要点のみ報告します。

研究会で熱心に勉強をしている先生方

作家は通常定価の１割で３年という出版契約を慣例で行ってきた。映画の原作についてもきちんと契約してきた。しかし谷川俊太郎氏他の裁判例からも複製権や著作者人格権などが問題になってきた。著作者の了解なくして勝手に記述を変更できないということである。生徒の作文なども教師が勝手に添削できないということのようである。複製も添削も教育現場では日常的に行われてきたのである。小説の映画化やラジオ・テレビでの使用など2次利用も盛んに行われている。インターネットではサーバーに置くだけでは送信権にはならないが、アクセスした段階で送信可能となるので送信可能化権が発生する。入学試験の問題、特に国語長文は作者の著作権侵害にあたる。ＨＰ等の掲載も許諾が必要。

教科書の掲載は権利制限があり、著作権が及ばない。色々注文は出来るが掲載拒否は出来ない。これは良い作家の作品は日本人全体の共有物であるという認識からきていると思う。学校における放送朗読（校内放送）、教師による複製、入学試験や検定試験などはＯＫということ。

問題なのは教科書準拠ドリル。日本図書教材協会がとりまとめて行っている。会員10社ほど。学校の教師に直接売り込んでいるもので、一般書店では販売されていない。裁判の結果定価の８％で20年分の支払いとなった。数億円規模になった模様。

裁判を起した人以外についても処理をしなければならなくなった。児童文芸家協会と児童文学者協会、団体に所属してない作家も集まって「小学校の国語教科書著作者の会」を立ち上げ、日図協と交渉、中学校教科書についても話し合っている。定価の５％で10年分支払っていただくということで解決した。

学習教材協会という団体もある。これは教科書準拠問題集で一般の書店で販売されている。また三省堂・学研・ベネッセなどの参考書や指導書などもあるが、これも過去10年分で決着した。

さて塾と学校、その中間として学校法人の予備校などについてであるが、多少の差はつけたい。営利目的とそうでないということで。入試問題はさきほどＯＫということであったが、定期テストや小テストなどはアウト。私立中高などで過去問配布などもよくあると思うがこれも駄目。

教育における著作物は文芸・文化の基礎となるものなので、できるだけ安く、かつ簡単な手続きで許諾を出したい。エクセルでもワードでもいいから作者名・頁数・枚数などを書いて提出していただければよろしいかと。生徒一人あたりいくらといった「保証金」制度なるものを考えています。授業料の設定などについて塾の皆さんと話し合っていきたい。学校関係はNPOを立ち上げて交渉しているが、塾についても交渉の窓口としての団体を作って欲しいと思っています。

だいたい上記のようなお話であったかと思う。大変な世の中になってきたものだ。なんでも法律、何でも権利と義務、嫌な世の中だ。プリントは危険だから、テキストを買ってやるしかないか？テキストを買えば、その出版社と著作者との話し合いということになろうから。

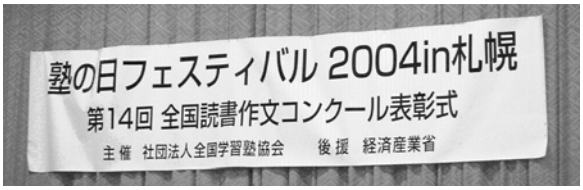
平成16年９月28日午前０時55分　加藤　実

私塾ネット北海道
10/10　塾の日記念式典
（主催：社団法人全国学習塾協会）

塾の日フェスティバル2004
in札幌　レポート

北海道エリア代表　入江昌徳

〈レポートをと言うことでしたが、私はこのイベントの実施責任者―社団法人全国学習塾協会塾の日フェスティバル運営委員会委員長でありまして、また当日の実行委員会の実働スタッフは私の塾のスタッフがほとんどと言うことで、客観的にレポートするのはなかなか難しい面があり、広報にはふさわしくないかもしれませんが、私の中での思いと感想を時系列でならべたもので、レポートに変えさせていただきます。〉



「数ヶ月前」

第2部の教育シンポジウムの内容が思いつかなくて、うなっていた。しかし3人寄れば文殊の知恵と言うやつで、実行委員会準備会なるものを開いたら、意見がいろいろ山のように…。（入江のつぶやき―やはり集まっていろいろ意見交換してみるもんだな、原則だな～）ちなみにお集まりいただいたのは、実行委員長をお願いした喜多先生(ミネル学院、札幌市、)、副委員長の村川先生(東北進学セミナー、仙台市)同じく畑山先生(志学塾、八戸市)、私入江、当社幹部2名の6名でわいわいがやがや。北海道内の先生が喜ぶものにするか、全国組織の大会なんだから格調高く行くかからスタート。

やはりいまの教育の現状と教育の未来を語るものでパネル風で…という結論。じゃ誰にお願いするか、英進館の筒井先生まず決まり、下村博文衆議院議員もお願いすることで決まり、じゃ野党からも塾出身の中津川衆議院議員も…(中津川議員も最後の最後まで日程調整してくれたのですが、どうしても都合がつかず代打で北海道選出の若手、小川参議院議員が登場)、他 にあれこれ名前が上がり、後の依頼で断られたり何なりで、しばらくは3人で…(3人じゃちょっと物足りないかな、最悪俺か…入江の思い)。

「1ヶ月ほど前」

塾関連業界の某氏より電話。富山の片山先生が来春開校の片山学園のプロモートも含めて、塾の日に参加したいと…。(入江思う、片山さんか～、ラッキイー！)

皆さんへの情報として新しい学校の案内はとても良いし、パネルに加わってもらえば、教育の未来を語るのはうってつけ、たぶん交通費や謝礼も要らないし～と言うことで大歓迎をすることとなった(一人で勝手に決めた！)。協会員だしね。

「1週間ほど前」

何となく準備は進んではいるものの、いま一歩盛り上がらないな～、なんかあと一つパンチが欲しいな…などと考えていたら、当社幹部(大がつきます、女性です)が、「弥生に英語で司会させない？」思わず入江、椅子から飛び上がり、あまりに勢いついて天井に頭ぶつけて、腹から地上に激突！(このあたり、浅田次郎風？)。わが頭の固さ実感、でもOKだと湯水の如くアイディアの沸いてくるわが頭(嘘をついてはいけません、髪の毛だって薄くなってるんだから―当社若手社員の思い)。

アイディア尽きない頭は「そうだ、じゃあ麻里亜と掛け合いでやらせよう！」ということで、カナダの高校を卒業しカナダの大学に合格しているが、入学保留にしてもらって北海道大学進学を目指している弥生と、北海道大学医学部生で女医の卵の麻里亜(両名とも入江の教え子)に1部の司会を全て英語で進めることを決定。(これは当日まで協会の役員には内緒にしておこう―入江の悪戯心)

「前日」

入江は前夜祭の宴会のことと、台風に

よる交通機関の障害などを考えることで頭が一杯。スタッフはわいわいと準備に取り組み、弥生と麻里亜は英語台本に取り掛かっている(彼女たちは朝10時から準備を始め、10時間以上かかって完成させる)。

協会役員や事務局、片山先生らはこの日の比較的早いうちに札幌入りしたが、午後からは飛行機が続々と欠航の連絡、入江はその他の役員やパネラーが札幌入りできない場合の想定を始める。「なんとかなんべー」と北海道弁で居直る。

前夜祭、14名参加で痛飲、3次会までなだれ込む。私塾ネット谷村理事長の代理で出席された平林治顧問も深夜まで頑張る。

「10月10日」

起きて、まず天気予報をチェック、台風は東へそれてくれた！朝から飛行機は飛んでいる！やれやれ、ホッと一息…。

10時、職員、司会など10時に教室集合、荷物の搬入などを開始(会場は教室から徒歩5分ほど)、若手は面倒くさいとばかりダンボール箱を抱えて歩いて会場へ。

11時、お手伝いいただく実行委員や各社の若手集合で早速会場の設営を開始。間もなく司会の二人が会場内でリハーサルを開始。突然英語が流れ出し、近くにいた協会石井会長、その場に固まって口をあんぐりあけて呆然と二人を眺めている(入江の想像です、後姿しか見てないので…、でも固まっていたのは事実だ！)。

12時過ぎ、参加者やお客様が見え始めた(らしい。一段落したので、入江は喜多先生とレストランで軽く食事を取っていた、あとで皆にガッツり叱られた)。

このあと開会、英語によるセレモニーは、退屈することなく(多分)淡々と進み、2部のシンポジウムも大好評のうちに終了。これは個性豊かでしっかりしたご意見をお持ちのパネラーの先生方は言うに及ばず、コーディネーターの伊藤協会副会長の手綱さばきの見事さにもよる。

第3部懇親会、2次会、3次会と札幌の夜はなかなか更けなかった。

お詫び　最初にも申しましたが、本当は皆様が一番知りたかったのは最後の数行の詳しい話だったかもしれませんが、筆者の立場と個人の性格上、このようになってしまったこと深くお詫び申し上げます。

大会にて熱心に勉強している先生方

受付で出席者を迎える入江先生

左より伊藤・小川・下村･片山･筒井の各先生

英語で司会をする札幌進学教室の弥生･麻里亜さん

私塾ネット東北

東北エリア代表　畑山　篤

名　称　私塾ネット東北
『２００４年第１回教育進学情報交換会』
会　場　ユートリー５Ｆ会議室
（八戸市：ＪＲ新幹線八戸駅隣接）
日　時　平成１６年7月８日（木）
１１：１５～１４：３０
参加者　会員塾5塾8名、非会員塾11塾11名、
私立高校5校9名、㈱育伸社1名

内　容

▲まず私塾ネット副理事長関志郎先生の「東北各県でも地域にとらわれずに広く受験者を受け入れる県立高校の入試制度改革が次々と発表され、隣接各県の高校受験のニーズを掘り起こす要因となっている。」という挨拶があった。東北エリア代表畑山篤先生の司会で今回青森・秋田・宮城の三県から参加した29名が紹介され、情報交換会が始まった。▲（司会）畑山篤先生：「青森県では６月９日に『高校普通科の学区制撤廃』が正式決定。他学区各高校の合格可能性に関する質問が増えることが予想されます。『地区別全県高校ランキング一覧表』があれば便利ではと思い、本日の情報交換会のために試作品を作った参りましたので、ご意見を。」▲学習塾側から、入試改革に対する意見が述べられた。▲吉本先生（あおよび個別指導学院）：「各地区の成績上位者が他地区の公立トップ校を受験する。特に弘前市は普通高校が少ないので、青森市に受験生が流れるのでは。」▲安藤先生（Ａｎｄａｙ’ｓ）：「入試改革と言われるが、現状では受験する当事者である子供・保護者に情報量が少なすぎる。正確な情報を提供する資料は多い程良い。」▲この『地区別全県高校ランキング一覧表』により、各私立高校の偏差値の低さが浮き彫りとなり、次のような要望も出された。▲佐々木先生（八戸工大二高）：「『ランク』という表現では学校の各付け。もっと高い偏差値の生徒もいる。『ランク表』は『合否推定表』等の名称に変えてほしい。」▲また、塾側から私立高校側に次のような意見が出された。▲鈴木先生（青森予備校）：「『特進コース』として上位にランクされた私立高校では上位何名を合格させるのか。」▲関先生（関教育学舎）：「全員を拾うと偏差値は下がる。運営上の問題もあろうが、それなりのレベルを保てないなら、親としては私立高校へは送り出せないのでは。」▲渡部先生（学習塾尚志舎）：「成績上位の子を失望させないために、定員を割ったとしても一定のレベルで打ち止めにするべき。」▲これに対し、堤先生（青森山田高校）：「確かに『東大コース』には入試４００点に満たなかった子も数名いて、中間テストの結果を見て『特進コース』に下げるか否か検討中。」と普通科東大コースについて説明。さらに、「私立は公立を落ちた子の受け皿ではなく、選ばれる学校作りが大事。点数の低い子たちにも勉強を教え、社会へ送り出している。」と。▲大川教頭（八戸聖ウルスラ学院高校）：「英語科、普通科特進には合格基準あり。英語科は中学での英語の評定も重視。入試結果で英語科ではなく普通科で合格させるケースも。」さらに今春から実施の男子募集についても詳しい説明があった。▲富田先生（千葉学園高校）：「看護科には、３年時に看護・保健大を受験する子も。大学受験に失敗しても本校専攻科へ復学できる。」「‥ただ多くの子が大学受験に流れるのは困るのですが。」と本音も披露。▲参加者全員から一通り発言が出たあたりで時間も差し迫り、司会者から青森県初の「全県高校ランク表」に関しては各学区から編集委員を募り、さらに議論を重ね、㈱育伸社の協力を得ながら実状に合ったものを作成する方針が提案され閉会となった。▲その後『平成１７年青森県高校入試難易度予想一覧表』という形で編集作業を行い、夏期講習前には参加塾を通して生徒保護者へ配布された。編集作業途中、来年度から八戸工業大学第二高等学校普通科に「スーパーカレッジコース（偏差値５６）」が急遽創設されるとの連絡が入り、協議の結果今回の一覧表へ反映させた。『ランク表』作成の影響が少なからずあったのでは。▲いつの時代も教育改革は、主役であるはずの子供たちには突然で、戸惑いと不安を感じさせる。今回の「情報交換会」には参加した学習塾、私立高校とも「自分たちの地域の教育力向上への熱い思い」が漲っていた。

報告者：高橋直子、後藤貴子（以上志学塾）

私塾ネット関東

「私塾ネット関東　鬼怒川懇親旅行」

日時：平成16年９月12日（日）

場所：鬼怒川温泉「御苑」

参加者：谷村志厚（ＡＩＭ学習セミナー）碇優（碇塾）佐藤勇治（調布学園）大住明敬（聖学舎）仲野十和田（ナカジュク）加藤実（総合教育研究会）梶原賢治（朝日学習館）鈴木正之（いぶき学院）渡邉浩（人間教育渡邉塾）竹内康信（山吹学習会）監物一男（向学館）以上の11名

当日参加した先生方

12日、赤羽から渡辺先生の車に鈴木、加藤，梶原、監物が、千葉からは竹内先生の車に谷村先生が分乗し、碇先生と佐野で合流しました。高速道を順調に走り、車内では加藤先生の著作権問題についての話があり、本当に難しい時代になってきたとの認識。又合宿の話もそれぞれ紹介があり、お盆ころ寺院で勉強と理科実験の2泊３日の合宿をする仲野先生。スキー合宿をする梶原先生。生徒は大喜びで人気とのこと。予定の11時に佐野に到着。一息入れて、今市へ。ここで碇先生お勧めの「ろばたづけ」のお店で試食後、漬物を購入しました。その後８人で昼食。そして鬼怒川温泉「御苑」には1:30に到着しました。

ロビーで少し雑談の後、チェックインをしました。そして、佐藤先生、仲野先生が電車で到着。先ずは皆で入浴へ。でも露天風呂にはびっくり！シャワーさえも無かったので急いで大浴場へ行く人も。我々３名はそのまま外の景色を見て、ゆっくりと風や森林浴にひたりました。

[定例会] 広報の編集会議で紙面の内容、担当者を決定。また、教務面では先ず鈴木先生の夏期講習のチラシが配布され、この夏は順調だったことが紹介されました。又「速読と脳」において朗読や暗誦が効果的であるとか、30問くらいの英単語学習などの話が各先生から紹介されました。その他渉外の佐藤先生からは11月14日の拡大任意団体連絡会の内容があり、「子育て支援フオーラムinかながわ」のテーマで神奈川県高校入試の講演やNPOの体験が予定されているとのことでした。

[懇親会]鈴木代表の挨拶の後、美味しいご馳走に舌鼓を打ちながら、団欒。加藤先生は特別メニューでしたが、私は魚料理や季節物料理、松茸ご飯とデザートでお腹一杯になりました。この間、全員が一言ずつ近況報告を述べました。

その後、各グループに分かれて行動しました。ラーメン組はゆっくりと食べながら談笑を、お酒組は酒の肴に色々と見たり話しをしたり健康チェックまでして盛りあがっていたようです。外出組は近所のお店でカラオケやダンスで大はしゃぎ。ホテルに戻ってお酒組と合流し、朝の４時まで話が盛りあがっていました。

13日は、佐藤先生と大住先生はそのまま用事があり直接帰られましたが、その他のメンバーは今市を経由して、宇都宮の菅谷先生の塾舎見学へ。１１：３０宇都宮に到着し、菅谷先生の塾舎を見学。外観もモダンでしたが、中も広々としていて、円卓を囲んでの個別学習はとても興味深いものでした。又トイレも豪華で充分なスペースをとり、ガラス張りの建物すべてが落ち着いたとてもおしゃれな塾舎でした。先生ご自身もご主人や職員の方と応対してくださり、お茶までご馳走になりました。そしてお昼のセッテイングまでありがとうございました。

この後、東京へ。このような懇親旅行は初めてでしたが、自由に雑談するなかで日頃の想いやお互いの親睦も更に深まり、今後の私塾ネットへの活動もより充実したものになっていくと思われました。本当に今回の企画を担当してくれた仲野先生、渡辺先生ご苦労様でした。参加されなかった先生方も次回は是非御参加下さい。　（監物一男）

私塾ネット関東

私学情報交換会開かれる

進学情報部　桂馬　辰尚

１０月２４日、池袋カンポヘルスにて私立中高５校８名の先生方｛川合正先生（京北・白山校長）杉原米和先生（白山教頭）上前善勝先生（東京文化教頭）谷田貝秀雄先生（文京学院大女子中教頭）國分豊先生（同・教務主任）尾形賢一先生（大森学園総務広報部長）河嶋先生（同・入試広報）福本明男先生（多摩大目黒入試広報室長）｝をお迎えして行なわれました。

第１部の説明会では、多摩大目黒の福本先生から始まり、ラストの大森学園河嶋先生まで、学校の教育環境、大学進学状況、推薦基準など広い範囲に説明が及び、出席された私学に受験希望者を送る塾側にとっては価値ある情報を得られたのではないかと思います。

今回、進学情報部から私学の先生方に、ご説明の中で出身地を伺ったことで、後々の二部の懇親会の席では予想以上の盛り上がりとなりました。同郷である者どうしが、テーブルに寄り合い、過ぎ去った昔の話に夢中になり、貴重なひと時を過ごせたのではないかと思います。

二部の懇親会では私塾ネットの谷村理事長の挨拶から始まり、他団体の先生方の御挨拶の後、恒例のテーブルスピーチが行なわれました。出席者全員が一言ずつ各自の出身地の紹介から始まり、近況報告や常日頃の感じたことなど、一人一人の思い思いの笑いが尽きることなく、楽しい懇親会でした。あっという間の２時間でしたが、きっと忘れられない思い出になったことでしょう。

余談ですが、二部終了後１０数名の有志の先生方が、会場近くのカラオケ店で二次会を開きました。この二次会では、私塾ネットの先生だけでなく、「東京私塾協同組合」の岡本先生、「大井町から教育を考える会」の木谷先生も参加され、最後までなつかしい歌が切れることもなく続き、最後に谷村理事長を中心に参加者全員が肩を組み合い円陣を組んで「星影のワルツ」を熱唱しました。出席者の心がひとつになり、まさに私塾ネットならではの会員の結びつきの強さを感じました。いつまでも続けていきたい会であると思います。参加者の皆様ありがとうございました。

私塾ネット中部

中部エリア代表　松本紀行

日々、新潟県中越地震にあわれた方々のご心痛がヒシヒシと伝わってまいります。私も４０年前の新潟地震の体験者でして、「余震」に対するウンザリするような恐怖を思い出しています。連絡網が回復次第、ネットでも何らかの救援が出来ればいいなあと思っています。

実は私共ここ３ヶ月間というもの、税務署と監督署のダブルパンチに見舞われまして、四苦八苦やっとの思いでくぐり抜けられたところです。ネットの皆様ににはご心配をおかけした事をおわびすると共に、アドバイスを頂いた皆様にお礼申し上げます。

これから「子育て支援・教育フォーラムｉｎ長野」の準備を急ぎます。

（主催）ＮＰＯ全国教育ボランティアの会
（実施日）１１月２８日（日）
　　午前１０時～午後３時３０分（予定）
（会場）　長野県下諏訪町商工会議所
（テーマ）第１分科会「学校を含む地域の連携で子供の居場所づくりを考える」
　　第２分科会「長野県高校入試改革への期待と問題点を考える」
　　第３分科会「地域の子供たちに生きる力をどう育てていくか考える」
（後援）　文部科学省、下諏訪町・諏訪市・岡谷市・茅野市の各教育委員会

著作権問題の統一窓口に期待します！！

１０月２８日、岡谷市で県統一テスト会作問審議会を開催。会員の努力が実り、著作権をクリアーした立派な（！？）問題が完成致しました。実施は来年１月です。又、「長野県高校入試問題実物コピー」（￥５５０円）の発売が４ヶ月遅れ、１０月中旬となりました。国語の著作権者１０名のうち、５ヶ月かかって４名だけ承認を受けたものの、結局、国語だけは出版を断念致しました。そこで、私立学校の方々の統一窓口の動きに大いに感謝しております。

（１０月２８日　記）

私塾ネット中国

中国エリア代表　北川健治

私塾ネット中国は隔月年６回の定例会が活動の中心となっています。そのうち、１１月度は忘年会をかねておおむね隔年で、一泊研修会、完全癒しとくつろぎの旅を開催しております。本年は完全なる癒しとくつろぎの旅。城先生の肝いりで山口県長門湯本温泉、西京ホテルで１１月１４日実施予定となっております。わが私塾ネット中国の通常の定例会は全国的に鳴らしている論客も多いためにいつも時間があっという間に過ぎていきます。本年度からは西本先生、西川先生、吉長先生に新規入会していただき毎回活発な論議で盛り上がっています。ご存知のとおりこの定例会に参加すると山口先生、城先生にあうことができるのですから出席率もきわめて高い状況です。会は各塾の運営状況、経営状況を全員が報告しあうという形で行なっています。各エリアにおいてもそうでしょうが、加えて地元任意団体、協会、私学との交流などのイベントの相互乗り入れも活発になってきていますので、昔に比べて情報入手には困らなくなってきました。しかし、かえって情報過多な状況であるために、それぞれが腰を落ち着けて、「であるならば、自塾の私塾教育に、また私塾経営に何をどのように生かせばよいのか」が分からなくなり、肝心かなめの「自塾を強くする」という作業がおろそかになるのではという状況をどう処理するかが目下の最大の関心事です。学習塾の生命線は１に授業、２に診断、３に対話です。この三本柱にどう肉付けをするのが塾長たるものの仕事です。また、日々刻々に変化に対応することを余儀なく強いられて塾経営のリ・エンジニアリングが大切な仕事なのです。私塾ネット中国の会員の皆様に「場」の提供はしてきているのですが、気心の知れた人間同士が集いあう「親睦の場の論理」だけでは任意団体に加入する会員のメリットには決してなりません。具体的に例えば、Ａ人に関するもの（職階ごとの分掌など）、Ｂモノに関するもの（教務ツール、広報・宣伝、場整備など）、Ｃ資金に関するもの(予算管理、資金繰り、金融機関との折衝など)、Ｄ情報に関するもの（同業他塾、地元、学校、教育環境など）、Ｅ計画に関するもの（年間、通常、講習会、講座）Ｆ運営に関するもの（企画、実施、処理、ルーチンワークなど）、Ｇ目標に関するもの（経営各項目における死守ライン、必達ラインなど）、形こそ違え、各塾が日々営々と培っているものを互いが互いを教材にして学びあい、「間違っていれば間違っていると指摘しあうたくましい場」であることこそが本当の意味での任意団体のメリットなのではないでしょうか。そういう意味で、私塾ネット中国は谷村理事長、仲野事務局長の期待のもと、「自塾が強くなる」ことをテーマに、刻みを入れることのできるエリア運営ができるよう全エリアの防人（さきもり）たらんことを今後は肝に銘じていきたいと思っています。

私塾ネット四国

四国エリア代表　湯口　兼司

私塾ネット秋の研修会は会員の楠山敬志氏が実行委員長として10月17日（日）実施された『子育て支援・教育フォーラムin三加茂』『生きいきワクワク体験　親子の集い』（主催　NPO法人全国教育ボランティアの会）に協賛および共同参加させていただくというかたちで実施いたしました。一部は午前10時より（不登校についてパネルディスカッション）が行われ、フリースクール阿波風月庵代表の林三知男氏をコーディネーターとして『不登校』に関するスペシャリスト佐藤、高松、花本、井本の四氏がパネリストとなり、かなり専門的かつ具体的な事例をたくさん挙げての興味深い討論会でした。塾生が不登校になったりしたときの対応策として参考になる部分が多く、後の質問時間にも積極的な質問が多かったと思います。
二部は午後1時より『生きいきワクワク体験』が地元の小中学生70名余りの参加のもと、私たち私塾ネット会員もボランティアとして協力し（ケーキ作り　講師　楠山敬志）（絵あわせ魔方陣と図形の組み合わせ　講師　西畑正夫）のイベントを実施しました。東京から田中理事長、佐藤事務局長、加藤広報部長の参加もあり、文部科学省川野係長のご挨拶で始まりました。さすがに楠山先生チーズケーキのみならずデコレーションケーキまで作っていただき子供たちだけでなく私たちも楽

しみました。西畑先生の魔方陣も絵合わせのアイディアになるほどと納得し、図形パズルも子供たちは大切そうにもって帰りました。
（詳しくは加藤先生よりの報告をご覧ください。）
参加塾17塾、会員参加者32名と今回も盛況でした。
新規入会塾　この春の総会時、研修会の講師としてご協力いただいた原田真一先生（啓真館）が新年度より正式に入会いたします。
啓真館　代表　原田真一　香川県高松市屋島西町１７３８－５　TEL　０８７－８４４－３０２２
以上です。よろしくお願いいたします。

各部報告

会計部

会計部部長　石川　維雪

●１６年度センター会費ご協力のお願い

先にもご案内申し上げましたが、今年度より会費の納入方法が変更されています。

以下内容ご確認願いまして、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、センター会費は１２，０００円（年額）でございます。

≪エリア東北（青森県）、エリア関東、エリア中国、エリア四国≫

各エリアごとに、センターの会費を集めさせていただきます。なお、同時にエリアの会費を集める場合もございます。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当者にお問い合わせください。

＊エリア代表者
エリア東北　畑山篤（志学塾）
エリア関東　鈴木正之（いぶき学院）
エリア中国　北川健治（栄光プレップ）
エリア四国　湯口兼司（湯口塾）

≪エリア北海道、エリア東北（青森以外）、エリア中部、エリア近畿、エリア九州≫

センター会計部より直接会費を集めさせていただいております。
４月はじめに１６年会費についてのご案内を個別にお届けしておりますので、ご確認ください。なお、まだご送金いただいていない方は、以下のいずれかの口座へ１２，０００円ほどご送金くださいますよう、お願い申し上げます。

詳細やご不明な点は、センター会計部　石川維雪（０３－３４８３－８２２１：さくら記帳代行センター内）までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】

以下の郵便口座までご送金ください。

（口座番号）０２３０－６－００６８８２０
（口座名義）全日本私塾教育ネットワーク

【銀行振込でご送金の場合】

以下の銀行口座までご送金ください。

みずほ銀行　祖師谷（そしがや）支店
普通預金　８０７９３７２

事務局

センター事務局長　仲野　十和田

６月の代表者会議で、私塾ネットセンター事務局長再任されると同時に、エリア関東の事務局の任から解放され、混乱していた自分の役割が少しずつ明確になってきました。お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、新年度より事務局通信は写真入りの郵送に致しました。「ネット化」に逆行しているとのお叱りを覚悟してですが、少しでも元気な会員の姿がお届けできればと思っております。

話しは変わりますが、ここ最近若手の先生方が体調を崩されているとの連絡が連続で入ってきました。異常気象とオーバーワークからか、心配なところです。ホームページを担当していただいていた、石川維雪先生もちょっとご無理の出来ない状況が続き、少しの間更新ができない状態でした。しかし、ここにきて運良く鈴木正之先生のお知り合いが、予算内で引き受けてくださるということで、10月より随時更新を開始しております。窓口は事務局で担当させていただいておりますので、地域の情報や個人的なものも含め、ご連絡いただければ幸いです。また、会計業務は次長の長江勝秋先生が担当することになりますので、よろしくお願い致します。

教　務　部　レ　ポ　ー　ト

私塾ネット　教務部長　梶原賢治

400メートルのコースを走ることを考えてみよう。中高生が400メートルを6分で進んだら彼らにとって体を鍛える運動にはならない。2分程度で走ったらどうだろう。心肺機能から足の筋肉から様々な部位が鍛えられることは、想像がつく。そして、中高生が400メートルを2分程度で部活などでウォームアップとして毎日10回、3年～6年繰り返すとすればその継続が作る肉体はたくましいものになることは、ほぼ間違いないでしょう。何かをしても疲れない体はこうして作られ、年を経ても元気に様々なことに打ち込めると信ずるから、学校やご両親が部活動を勧める理由の一つになっています。

さて、当館では、脳の集中力・持続力・瞬発力を鍛えるよう、ストップヲッチを使って各学年のポイントとなる基本的な計算をやっています。たとえば、6年生のやっている約分は、分子分母の共通の約数を探す計算であり、もちろん余りのない割り算でもあり、等しい比を作る勉強ともつながっています。数にたいするセンスを磨くのにぴったりです。約分50題を6月初めに、30分かかっていた子どもたちが5分弱で正解率凡そ100%近くで出来るようになるころには、子どもたちの数へのセンスや操作能力は大きく変わっています。約分50題を5分弱で正解率凡そ100%で出来るようになると脳の集中力・持続力・瞬発力がついていますから、一般のワークブック1ページへのイメージが変わってきます。そして、一般の標準問題集であれば1ページ7分前後で出来るというイメージを持つことが出来るようになります。ですから「ワークブックの宿題5ページぐらいは簡単」と思う様になります。1時間は集中力・持続力・瞬発力を鍛えた子どもたちにとっては大変豊かな時間へと膨らんでいくのです。逆に約分50題を30分もかかる場合は、脳に集中力・持続力・瞬発力という筋肉がついていないから何をやっても疲れるということになります。いわゆる勉強の得意な生徒の中には勉強時間の短い生徒もいますが、このあたりにその理由があるように思います。

運動同様に勉強も鍛えていない脳にとって全ての課題が大きな負荷となって襲いかかります。勉強好きも勉強嫌いも小学校からの勉強への取り組み一つで大きく変わっていくでしょう。

友好団体　パソコン教育推進協会

パソコン自作研修会

１０月２４日（日）11時30分に東洋高校パソコン教室に入る。既に到着していた碇理事長と本日の講師である鈴木先生の車から部品等を降ろし、１台分ずつに種分けをする。パソコンケース、マザーボード、ＣＰＵ、ＣＰＵクーラー、ＨＤＤ、メモリー、光ドライブ、グラフィックボード、ＦＤＤ、その他、工作工具等を１台分ずつ机の上に置いていく。

いよいよ受講生が集まる。本日は講師２人、助手２人、受講生は製作をする人９人、見学者４名、総勢17名で本日の研修は行われる。

まず理事長の挨拶、講師の先生の紹介があり研修に入る。パソコンを自作するメリットはケースデザイン、性能、拡張機能などすべて自分流に選んで、どこにもないオリジナル仕様のパソコンを作ることができ、それを自分で組み立てることにより、作業を通じて、パソコンの仕組みや、ＣＰＵ、メモリー、マザーボードなどのパーツについての確実な知識が身に付くことができることである。またそれによって、パソコン自体のバージョンアップもいつでもできるようになり、いつでも最新の仕様でパソコンを持つことができることである。

いよいよ組み立てに入る。部品を組み立てるときにはその部品がパソコンでどの様な機能を持っているのかが詳しく説明され作業は次から次へと進みついにパソコンの組み立てが完了する。

次に行われるのはＯＳのインストールである。前もって買っておいたＯＳ（ＨＤＤと一緒に購入すると安く手に入る）をＤＶＤドライブにセットし講師の先生の説明通りインストールしこれで完了。あとは各教室にＰＣを持ち帰りアプリケーションをインストールすれば自作パソコンとして使用できる。研修を終えた受講生たちは自作したＰＣを嬉しそうな顔をして大事そうに持ち帰る姿が印象的だった。

文責　協会事務局　平林　　治

渉外部・教育ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会報告

渉外部次長　加藤　実　報告

Ⅰ　拡大任意団体連絡会について

７月９日（金）

第68回拡大任意団体連絡会、第25回私立中高進学相談会（ＮＳビルにて９月20日開催）第１回実行委員会が新宿ＮＳビル13回「ＮＳ会議室」にて開催された。

９月10日（金）

第69回拡大任意団体連絡会、第25回私立中高進学相談会第２回実行委員会が飯田橋「東京都私学財団」（飯田橋セントラルプラザ11階）会議室にて開催された。

参加団体は塾全協・私塾ネット・私塾協議会・（社）全国学習塾協会・（社）かながわ民間教育協会・全国学習塾協同組合・東京私塾協同組合・埼玉私塾協同組合・私塾協同組合連合会・千葉学習塾協同組合・学校教育支援調査会・民間教育連盟・塾教育研究会・学校外教育研究会・NPO法人全国教育ボランティアの会・全日本学習塾連絡会議の16団体で各団体の理事長、事務局長、専務理事、幹事長など25名が出席し、各団体の行事予定など情報交換が行われた。

この拡大任意団体連絡会は平成13年５月に「私塾・私学・企業　教育ネット要覧」の第一集が発行されるようになってから、任意団体・許認可団体の枠を超えて首都圏の主要団体が年４回（３月・７月・９月・11月）開催するところとなった。

次回11月の拡大任意団体は第70回拡大任意団体連絡会を記念して、11月14日（日）に下記の要領で開催されることになりました。

日時　平成16年11月14日（日）午前10時半～12時20分

会場　厚木ゼミナール東口校舎301～310号教室

内容　平成17年度神奈川県公立高校入試について

講師　神奈川県教育委員会高校教育課

主幹田中時義氏

対象　学習塾・教育関係者・保護者（一般50名）

なお、午後１時より、「生きいきワクワク体験親子の集い」が開催されます。主催は全国教育ボランティアの会、後援は文部科学省・神奈川県・神奈川教育委員会・厚木市教育委員会・海老名市・海老名市教育委員会他。「おいしいラムネ作り」「中嶋教授のわくわく天文教室」「絵合わせ四次元魔方陣パズルと図形の不思議」など、おもしろい企画。ご興味のおありの先生方は覗いていってください。

Ⅱ　首都圏進学相談会

今年は首都圏（主として東京・千葉・埼玉・神奈川）各地では約200回ほどの私立中高進学相談会が開催されます。その主なものは９月・10月に集中して実施されますが、そのうちの３つをご紹介します。

８月21日（土）・22日（日）有楽町国際フォーラム東京私立中学高等学校協会主催「進学相談会」53000人ほど参加

９月20日（日）新宿ＮＳビル地下一階展示場にて塾全協主催の「私立中高進学相談会」。首都圏の主な学習塾団体の後援・協賛。約3000人参加。丁寧な相談が好評！

９月23日（祝）横浜「パフィスコ」での神奈川・東京「中高進学相談会」。主催は社団法人かながわ民間教育協会。後援は神奈川教育委員会他各市の教育委員会。約10000人参加。

Ⅲ　全国教育ボランティアの会　活動報告

○平成16年７月４日（日）午前９時～午後６時、調布市文化会館「たづくり」12階大会議場、1201・1202・1203会議室、11階1101学習室にて第３回「生きいきワクワク体験・親子の集い」、第１回「調布フォーラム」が開催された。

午前中は第１部「地域の子育て支援活動拡充連携フォーラム」を開催。午前10時より開会。田中敏勝全国教育ボランティアの会理事長による「開会の辞」紙ヒコーキ発進、堀江正憲調布市市民参加推進室生涯学習交流推進担当課長のご挨拶、佐藤勇治調布フォーラム親子の集い実行委員長のガイダンスの後、「調布フォーラム分科会」・「親子の集い」予備実習が開始される。

（１）　第１分科会　女性の新しいネットワークを考えるシンポジューム（12階大会議場）

馬場寿実元調布ボランティア・NPO支援センター開設準備協議会委員の挨拶に続き、田中雅文日本 女子大学教授（コーディネーター）、松浦幸子クッキ

ングハウス代表（調布で活躍中の女性パネラー）、青山富美江おたすけママ代表、本間　恵NPOえん代表（コメンテーター）を中心に活発な議論が行われた。

（２）第２分科会　地域の子育てを考える フォーラム（11階1101学習室）

小林祐子ちょうふ市民・ボランティア活動センター主任の司会のもと、佐藤勇治全国教育ボランティアの会事務局長挨拶の後、「地域の子育て支援活動拡充連携を考える会討論会」を開催。

講師は文部科学省生涯学習政策局子ども居場所づくり推進室専門職の平田秀一氏。コメンテーターとして中嶋浩一一橋大学大学院教授、石川　昇国立科学博物館学習推進部学習支援課長、飯島継生東京電力（株）：フォーラム推進委員。

（３）　第３分科会　保護者ボランティア、一般ボランティア、指導実習

田中敏勝全国教育ボランティアの会理事長を講師に迎え、「ラムネ作り」（10階調理実習室・談話室）、西畑正夫全国教育ボランティアの会理事を講師に迎え、「絵合わせ四次魔方陣と図形の不思議」（12階1201会議室）を実演指導。ボランティアの方々は熱心にメモを取っていました。

第２部　セレモニーと「生きいきワクワク体験・親子の集い」

１　セレモニー（午後１時～午後１時15分）
司会は蓮井清子リン・ＭＣグループ代表

（１）　開会の辞　NPO法人全国教育ボランティアの会理事長田中敏勝

（２）　推進委員紹介

（３）　挨拶

○調布市教育委員会教育長　榎本和男氏
○文部科学省生涯学習政策局子ども居場所づくり推進室専門職　平田秀一氏
○社会福祉法人　調布市社会福祉協議会会長　恩田章司氏

２　ガイダンス　調布フォーラム「親子の集い」実行委員長　佐藤勇治氏

３　楽しい天文教室

一橋大学大学院教授　中嶋浩一先生
130年ぶり　金星の太陽面通過、夏の星座

４　閉会の辞

お礼のご挨拶　フォーラム・「生きいきワクワク体験・親子の集い」実行委員長　佐藤勇治氏

○子育て支援・教育フォーラム　ＩＮ　三加茂

平成16年10月17日三加茂町「ふれあいプラザ」（三加茂町役場）
午前中は「不登校についてのパネルディスカッション」
午後は「生きいきワクワク体験　親子の集い」でチーズケーキ作り（楠山敬志先生）、絵合わせ四次魔方陣と図形の組み合わせ（西畑正夫先生）。

○子育て支援・教育フォーラム　ＩＮ　名寄

平成16年10月24日（日）名寄市民文化センター
午前中は「平成17年度北海道（名寄市）の高校入試について
午後は「生きいきワクワク体験親子の集い」で、ラムネ作り（田中敏勝先生）、絵合わせ四次魔方陣と図形パズル、スーパーライトグライダー、天文教室など。

○子育て支援・教育フォーラム　ＩＮ　かながわ

平成16年11月14日（日）厚木ゼミナール東口校舎301～310号教室にて。前出。
○その他、10月10日には北海道札幌市で社団法人「全国学習塾1協会」の「塾の日式典」に田中敏勝先生と佐藤勇治先生が出席。
○９月30日（金）江東区立八名川小学校でラムネ作りを田中敏勝・佐藤勇治・加藤　実の３人が出向き、指導してきました。

ラムネ作りに参加している親子の皆さん

平成16年10月21日午後11時21分　加藤　実
平成16年10月25日午後11時32分　修正。

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校　TEL03-3376-2244
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
村山　ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生

江戸川学園取手中学高等学校　TEL0297-74-8771
〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
竹澤　賢司先生

十文字中学高等学校　TEL03-3918-0511
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
卯木　幸男先生

東洋高等学校　TEL03-3291-3824
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
齋藤　元治先生

洗足学園大学付属第一高等学校　TEL03-3711-5751
〒152-0012 東京都目黒区洗足1-15-13
佐藤　慶一先生

桜丘女子中高等学校　TEL03-3910-6161
〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
品田　健先生

聖徳大学附属中高等学校　TEL047-392-8111
〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
川並　芳純先生

麹町学園女子中高等学校　TEL03-3263-3014
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
伊藤　暁先生

春日部共栄中学　TEL048-737-7611
〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
宇野　禎弘先生

大成高等学校　TEL0422-43-3196
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
森　保先生

東京学園高等学校　TEL03-3711-6641
〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
須藤　勉先生

東京立正中学高等学校　TEL03-3312-1111
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
藤井　教戒先生

八雲学園中学高等学校　TEL03-3717-1196
〒152-0023 東京都目黒区八雲　2-14-1
横山　孝治先生

関東第一高等学校　TEL03-3653-1541
〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
副田　康孝先生

武蔵野中高等学校　TEL03-3910-0151
〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
海老沢　照明先生

神田女学園中高等学校　TEL03-3291-2447
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
梅津　久昭先生

和洋国府台女子中学高等学校　TEL047-371-1120
〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
太田　陽太郎先生

東京文化中学高等学校　TEL03-3381-0196
〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
上村　吉勝先生

広島加計学園　TEL084-941-4115
〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
和田　淳先生

文京学院大学女子中学高等学校　TEL03-3946-5301
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
大久保幸夫先生

京北学園　TEL03-3941-6253
〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
実方　隆志先生

大森学園高等学校　TEL03-3762-7336
〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
河嶋　正先生

編集後記

広報７号はいかがでしたか。私が編集長になって最初の公報の発行でしたので、いささかの戸惑いもありましたが何とか編集委員の協力で発行に漕ぎ着けましたのも皆様方のお蔭だと思い心から感謝いたしております。

編集の方法は、まず編集委員の担当者が原稿執筆者に原稿〆切日と内容を指定して依頼します。次に執筆担当者はその原稿をメールに添付して当方に送ります。次に送られた原稿を予め作成しておいた広報の台紙に原稿に一切手を入れずに流し込みます。その後が大仕事です。台紙の中で文字書式を変更したり、写真を挿入したりして広報の体裁を整え完成させていくのです。

このようにして完成させていきますので原稿執筆者の先生にお願いしますが、是非〆切だけは守ってください。

平成16年11月　編集長　平林　治

全日本私塾教育ネットワーク

本部事務局
〒173-0005　東京都板橋区仲宿29-6
ナカジュク内
TEL 03-3963-5572　FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理事長　谷村　志厚
〒270-2231　千葉県松戸市稔台63-21
ＡＩＭ学習セミナー内
TEL 047-368-2729　FAX 047-368-2189

私塾ネット広報編集委員会
〒120-0032　東京都足立区千住柳町14-12
青雲塾内
TEL 03-3881-2240　FAX 03-5284-3444